

水稻の生育状況と当面の対策

第 1 報
千葉県農林水産部
平成 25 年 6 月 3 日

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

生育は地域や田植時期によりばらつきあり！

茎数が確保されたら順次中干しを！

ふさおとめは幼穂形成期の的確な把握を！

[生育概況]

○茎数不足の地域があるが、回復傾向！（「表 1」を参照）

今年は、低温や強風の影響で活着不良や初期生育の停滞が見られました。このため、地域や田植え時期により生育のばらつきが大きくなっています。生育が順調なほ場では目標茎数が確保されつつあり、また、初期生育が停滞したほ場も葉色が濃くなってきており、生育は回復傾向にあります。

表1 品種別の生育状況（6月1日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	並	やや短～並	やや少～並	並
ふさこがね	4月20日頃	並	やや短～並	やや少～並	並
コシヒカリ	4月20日頃	並	やや短～並	やや少～並	並
	5月1日頃	並	やや短～並	やや少～並	並
ふさのもち	4月20日頃	並	やや短～並	やや少～並	並
	5月10日頃	並	やや短～並	並～やや多	並

※ 過去5か年（2008～2012年）の平均値との比較

ただし「ふさのもち」については2010～2012年の平均値との比較

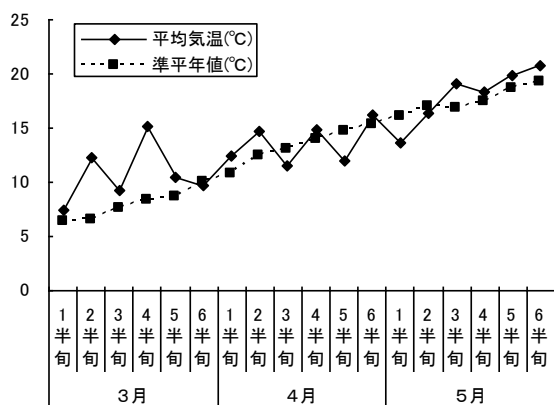


図1 平均気温の推移（佐倉市）

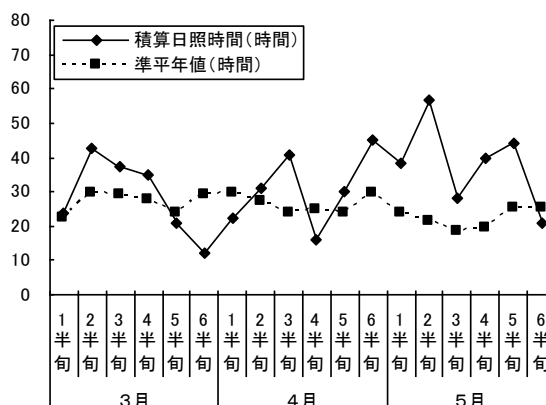


図2 積算日照時間の推移（佐倉市）

[これからの管理のポイント]

○生育に応じた水管理で茎数をコントロール！

地域や田植え時期により生育のばらつきが大きくなっています。目標茎数が確保されたら、順次中干しを開始して過剰な分けつの発生を抑えましょう。茎数過多は倒伏や玄米品質低下の原因となるので、「表2」の目標茎数を確認し、順次中干しを始めましょう。

※中干しのやり方と水管理

- ① 中干しは強すぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前3週間から出穂後2週間までは湛水管理（この期間は田面が露出しないように管理する）
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	—	360本/m ² (20本/株)	—
コシヒカリ	4月20日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)
	5月1日			

※（ ）内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※ 極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

○今後の低温に注意！

気象庁が5月31日に発表した1か月予報によると、向こう1か月は平年に比べて曇りや雨の日が多い見込みです。この時期に、気温が19℃以下になると生育が停滞して、分けつが抑制されます。

低温が予想されるときは、深水管理で水温を維持しましょう。

○「ふさおとめ」は幼穂を観察し、穂肥に備えましょう！

（「表3」「表4」を参照）

4月20日植えの「ふさおとめ」は平年並～やや遅く、6月18日頃から幼穂形成期（幼穂長1mm）となる見込みです。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので、穂肥は幼穂形成期から1週間以内（幼穂長1～10mm）に施用しましょう。

幼穂形成期の生育量の目安は表4のとおりです。

表3 品種別の幼穂形成期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測（月日）			
		県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日	6月23日～	6月20日～	6月20日～	6月18日～

※ 日平均気温に基づく発育段階予測結果

表4 幼穂形成期の好適な生育量

品種	茎数 (本/m ²)			葉色 (カラスケール値)
	砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	570~620 (31~34本)		520~570 (29~31本)	4

※ () 内は 60 株/坪植えの時の 1 株当たり茎数の目安

○茎数不足でも窒素の中間追肥は行わない！

茎数確保が遅れていても葉色は濃くなってきています。この時期の窒素の中間追肥は倒伏を招き、食味・品質・収量や収穫時の作業性に悪影響を及ぼしますので、窒素の中間追肥は行わないようにしましょう。

○置き苗を処理しましょう！

補植用にほ場の隅に置いてある苗はいもち病の発生源になります。速やかに廃棄しましょう。

○生産履歴を必ず記帳しましょう！

流通業界や消費者からは、いつどのような肥料や農薬を使ったのか等の栽培履歴が分かる米が求められています。消費者に信頼される米づくりのために、必ず生産履歴を記帳しましょう。



図3 ふさこがね (4月20日植え)
6月3日 (千葉市緑区刈田子) の様子

低温の影響が少なかった千葉では生育は順調で
すでに中干しの時期を迎えている。

適正な施肥で健全な稲の栽培に取り組みましょう

～加里を補い、放射性セシウムの吸収抑制を図りましょう～

窒素、リン酸、加里は稲の生育に重要な肥料成分です。
しかし、近年、加里の土壌中成分量が不足している例が見受けられます。加里を補い、健全な稲の育成に努めましょう。
中間追肥での加里施用は、米の放射性セシウム吸収抑制対策にも効果的です。

<ポイント> 加里肥料を適正量まで施用しましょう！

県の加里の施用基準量は、基肥 6～8kg/10a、穂肥 1～3kg/10a です。
加里を施用することによって、放射性セシウムの稲への吸収を抑制することができます。
なお、倒伏を防ぐため、窒素は適正量とします。

特に土壌中の加里含量が少ないことが予想される以下の水田では、穂肥より効果の高い中間追肥で加里施用を行いましょう。

- ①倒伏を回避するため、基肥の施用量を控えた水田
- ②一発肥料のみの施用で穂肥分の加里が不足している水田
- ③耕畜連携等により水田から稲わらを持ち出し、堆肥を入れなかった水田
- ④土壌に含まれる加里が少ないと思われる（砂質）水田

加里肥料の施用量

稲は生育期間を通して、10kg/10a程度の加里を必要としています。
不足分の加里成分を適量中間追肥してください。

例1) 一発肥料のみ施用している場合

穂肥分の加里成分 (3kg/10a) を補います。

成分から換算すると ・塩化加里 : 5kg/10a 又は
・ケイ酸加里 : 15kg/10a となります。

例2) 水田から稲わらを持ち出している場合

稲わら分の加里成分 (9kg/10a) を補います。

成分から換算すると ・塩化加里 : 15kg/10a 又は
・ケイ酸加里 : 45kg/10a となります。

※塩化加里の方が即効性があります。

※稲の倒伏を防ぐため、窒素成分を含まない加里肥料を施用します。